

2.2 地域の方の意見の集計結果

図2は、地域の方の各項目における意見である。④「学校の施設・設備を地域社会に開放してほしい」、⑥「災害時には総合芸術高校に避難しようと思う」に対して強い関心を示す一方、③「新型コロナウイルス感染防止の観点でよく対応している」、⑤「学校は地域や社会に十分に情報を発信している」に対しての関心は弱い。地域の方は、学校からの恩恵を期待しているが、学校の取り組みへの関心が弱いことから情報発信については、さらなる工夫が必要と考える。

- ① 総合芸術高校の生徒は学校生活に前向きに取り組んでいる
- ② 総合芸術高校の生徒はマナーよく社会生活を営んでいる
- ③ 新型コロナウイルス感染防止の観点でよく対応している
- ④ 学校の施設・設備を地域社会に開放してほしい
- ⑤ 学校は地域や社会に十分に情報を発信している
- ⑥ 災害時には総合芸術高校に避難しようと思う

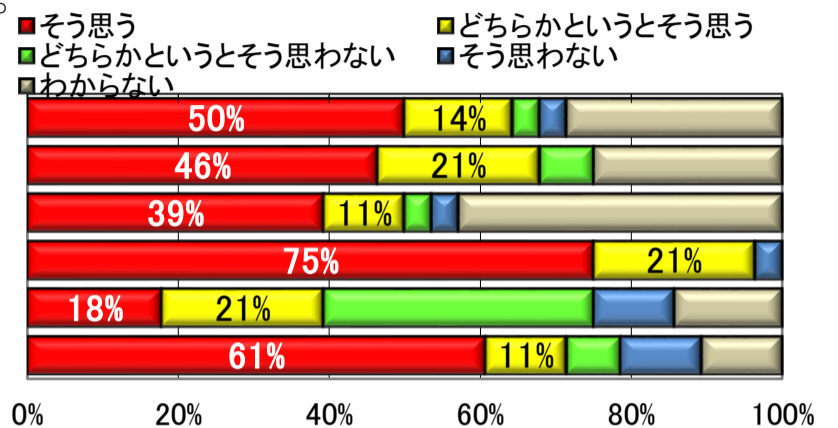


図2 地域の方の各質問項目に対する意見

2.3 記述意見の集計結果

図3は、各質問対象における記述意見を下記の8つの項目に分類したものである。この中で、生徒の意見では、教科に対する記述が30%以上を占め、学力向上に対する意欲が特徴的であった。また、保護者の意見では、「新型コロナ関連について」に多くの記述があり、家族に与える心配が反映されていた。これらに対し、教職員の意見は、「学校運営について」の記述が多く教育に対する改善意識の高さが表れているものと推測される。一方、地域の方から見る学校は、概ね行事に関する内容に分類される。その内容は、概ね「学校との関連を密にしたい」に代表され、「2.2 地域の方の意見の集計結果」と矛盾しない傾向と考える。

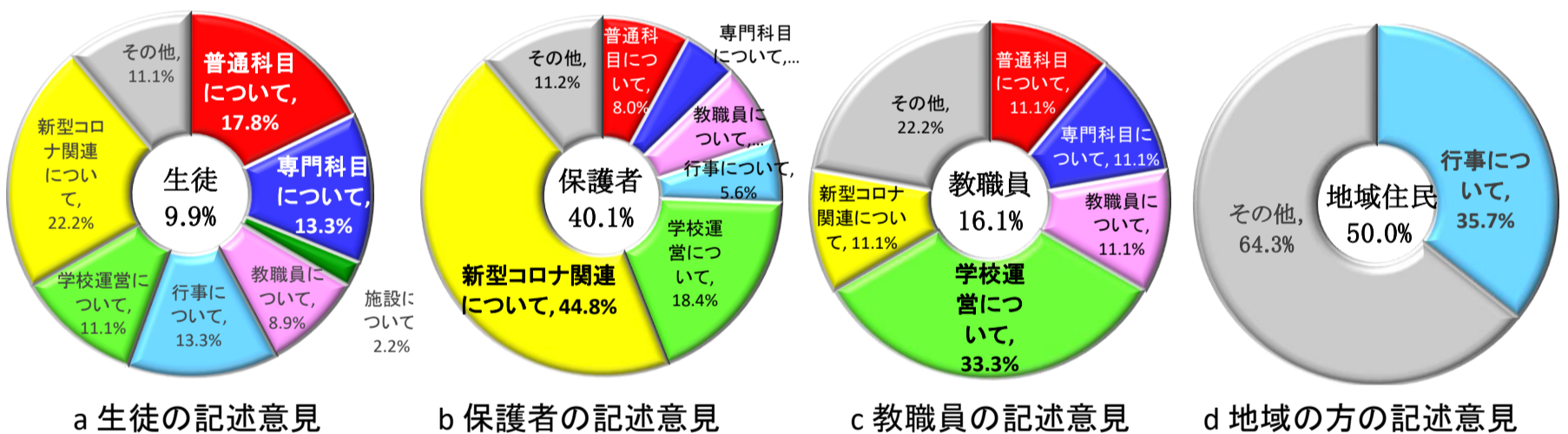


図3 各記述意見の傾向

(ドーナツ図中心部の数字は記述欄への記入率)

3. まとめ

生徒、保護者、教職員、および地域の方に対して学校評価を実施し、以下のような点を明らかにした。

1. webによるアンケート調査、および統計データのグラフ化は教職員の稼働負担の低減と調査結果の理解度の向上に有効である。
2. 生徒、保護者、教職員の回答は、全体的に肯定的な評価をしているが、一部の方は普通教科、3科の交流に関して課題を有しており、その傾向は例年継続している。また、地域の方は、学校に対して施設の開放や避難所としての利用を希望している。
3. 記述意見の記載内容から、生徒は主に教科への関心が高く、保護者は家族の健康に関心が高く、そして教職員は、学校運営に関する意識が高く、地域の方は、学校との関連を持ち利用したいという傾向がある。

今回の学校評価アンケートの回答率は、生徒96.4%(R1° 97.5%)、保護者68.4%(R1° 65.2%)、教職員100.0%(R1° 90.2%)となり昨年度とほぼ同等の結果であった。webを用いたアンケートの実施は、非接触化の効果、アンケート用紙の1,000枚以上の削減、さらにデータの統計処理の自動化により、教職員の負荷を緩和したが、地域の方へのアンケート実施についてもwebを適用すれば作業の効率はさらに向上すると考える。

一方、新型コロナウイルスの影響は、次年度にも引き続き現れることが想定されるため、この状況を受け入れた教育活動の工夫が大切であると考えます。

以上